

令和2年度実施

市民協働「熊谷の力」事業
「はじめての一步助成金」事業

合同成果報告会



©熊谷市

熊谷市市民活動推進課

次 第

日 時：令和3年7月9日（金）

午後1時30分から

会 場：江南公民館

会議室A・B

1 開 会

2 挨 拶

3 報告発表 13：35～15：40（予定）

市民協働「熊谷の力」事業

報告 発表順	区分	事業名	報告者		発表 予定時刻
			市民活動団体	所管課	
①	市民提案	くまっしえ育自サイト開設事業	熊谷市地域子育て 支援拠点連絡会 くまっしえ	こども課	13：35～ 13：50
②		身体障害児の生活調査等事業	特定非営利活動法人 NPOにじいろ	障害福祉課	13：50～ 14：05

（10分休憩）

「はじめての一步助成金」事業

報告 発表順	区 分	事業名	報告者(市民活動団体)	発表 予定時刻
③	チャレンジ助成金	埼玉の3偉人の1人、公許女医第一号・ 荻野吟子の出前講座「紙芝居・講演会」	特定非営利活動法人 めぬまガイドボランティア 阿うんの会	14：15～ 14：30
④		熊谷の地域文化の発掘と広報	埼玉文化研究会	14：30～ 14：45
⑤		科学本を読んでいろいろなものを 作ってみよう！	さくらんぼ文庫	14：45～ 15：00
⑥		移動式子ども食堂（あい♡だいな～）	NPO 法人あいだ	15：00～ 15：15

4 講 評

5 閉 会

事業名	くまっしえ育自サイト開設事業	
実施団体等	実施団体：熊谷市地域子育て支援拠点連絡会くまっしえ	所管課：福祉部こども課
1 事業目的	親たちの持っている子育て力に気づかせ育児不安を解消するという、これまで地域で果たされていた役割を機能させること。	
2 事業概要	身近にいる支援者からの応援ツールとして育児中の親に活用してもらうもの。親たちの心の変化や子どもの成長に伴う悩みや解決法に支援者からの言葉を寄り添わせ、育児を通して自分らしい親を探る「育自」を支援する。	
3 事業期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日	
4 事業区分	市提案事業 ・ <u>市民提案事業</u>	
5 事業形態	委託事業 ・ <u>補助事業</u> (補助率 78%)	
6 事業費	総事業費： 1,799,722 円 (A + B + C)	事業収入： 130,000 円 (A)
	実施団体の負担額： 269,722 円 (B)	市の負担額： 1,400,000 円 (C)
7 事業成果と波及効果	●受益対象への具体的な成果 令和2年11月に育自ポータルサイトを開設し、ポスター、名刺サイズのカード、市報等での周知を行った。また、各拠点ブログ等の定期的な更新や月ごとの通信の掲載によってサイト内のコンテンツの充実を図っている。 ●達成度 累計 11,544 アクセス、1人あたりのサイト滞在時間は平均 43 分（令和3年2月末時点）。ポスターや名刺サイズのカードを用いた周知を行うとともに、各拠点の情報や子育て相談等のページを充実させることによって、開設時から多くのアクセス数を獲得している。 ●波及効果 育自サイトをきっかけに地域子育て支援拠点を初めて利用する親子もあり、サイトの周知が進むことで地域子育て支援拠点の利用が促されている。また、各拠点ごとにサイトを更新するため、新型コロナウイルス感染症対策としての対応についてもすぐに最新の情報を掲載することができている。	
8 協働の効果	●実施団体から見た協働の効果 “熊谷市との協働”という名の信頼のもと、スムーズに事業展開できたこと（バナー広告の協力は特に）が非常にありがたかった。そして何にも増して、この高額な助成金がなかったら不可能な事業であったことは間違いない。 熊谷市のホームページにもリンクしているので、支援拠点をよくご存知ない方でも入って来られる可能性が広がり、リンク先が熊谷市ということで安心して入れる効果が高い。 日常的に所管課とやりとりをしているので、新型コロナウイルスに関しての情報やそれに伴う各拠点の運営方法までリアルタイムに情報をアップできた。	
	●所管課から見た協働の効果 市内の地域子育て支援拠点等のスタッフが更新することにより、子育てに関する不安や聞きたいことについて信頼できる情報を得られるサイトとなっている。また、市ホームページにリンクを掲載することによって、市ホームページからも各拠点の最新情報をリアルタイムに確認できるようになった。新型コロナウイルス感染症対策についても更新しているため、外出が困難な親子が地域子育て支援拠点等の最新情報を知ることができるツールとしても活用されている。	
9 今後の展開と課題	●実施団体から見た今後の展開と課題 この事業により、子育て支援拠点の基本事業のひとつである「地域の子育て関連情報の提供」としても願ってもない手段を得られたので、まずは責任を持って継続していくことが支援拠点事業実施の観点からも必須である。ただ、すでに更新回数や提供情報の内容に拠点ごとの差があることは否めないの、くまっしえとしてお互いを支え合いながらこのサイトの魅力を保持していくことが一番の課題であろう。 また、運営費用をバナー広告掲載でまかなっていくため、他種業者との関わりやつながりがより	

重要となってくる。自分たちが井の中の蛙になることなく様々な業種の方との関わりを求めることが、「子育て」や「子育て支援」への関心の裾野を広げ、ひいては子どもの幸せに直結する可能性があるのではないだろうかと、この熊谷の力事業を通して感じてきた。「子育て」は親だけが、ましてや母親だけがすることではないし、「子育て支援」は子育て支援拠点でなければできないものでもやってはいけないものでもないのだという意識を広く浸透させていきたいと思っている。そしてそれは逆に広告掲載に協力してくださった団体の声からも実感したことでもある。ありがたいことに、子育てや子育て支援に関わりを持ちたいと考えている企業団体は案外少なくないのかもしれない。

そこで、このバナー広告を通し更なる協働へと展開していくことで、多種業種・オール熊谷での子育て支援の輪を広げ、子育てしやすい熊谷市の環境へとつなげていきたいと考えている。その為には私たちが子育て親子の実態を把握し、寄り添い型のサイトとして求められるようアンテナを立て続けていくことと、私たち自身の外へ向けた興味関心を持つことと専売特許的な意識を改革することも課題となってくるだろう。熊谷市内全支援拠点で足並みをそろえて取り組んでいきたいと思っている。

●所管課から見た今後の展開と課題

今後も各拠点等のページやお知らせ等を更新し、常に最新の情報を提供できるよう努める。子育て相談等に対して速やかに回答する、おすすめの絵本やおもちゃ等のページを充実させる等によって、子育ての不安を解消するよう努める。サイト運営費用についてはバナー広告の掲載等でまかなっていく。

事業名	市民協働「熊谷の力」 身体障害児の生活調査等事業	
実施団体等	実施団体：特定非営利活動法人 NPO にじいろ	所管課：障害福祉課

1 事業目的	在宅の身体障害児（肢体不自由）の成長に伴い表面化される困難を明らかにするために、身体障害児のいる家庭を対象に調査を実施し、地域福祉の現状と課題を行政機関、福祉に携わる専門職、市民で共有するための報告会を行う。	
2 事業概要	1 身体障害児とその家族の生活に関する調査の実施 肢体不自由を理由とする身体障害者手帳を所持している障害児のいる家庭に調査票を配布し、市へ提出を依頼。回答結果は調査報告書としてまとめた。 2 アンケート調査報告会開催 調査結果より関心度の高かったテーマについて、有識者・行政担当者を交えたパネルディスカッションやヤングケアラーをテーマとした講演を内容とする報告会を行った。報告会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため無観客で開催し、FM クマガヤでラジオ放送。また、熊谷市 YouTube チャンネルで後日配信した。	
3 事業期間	令和２年４月１日～令和３年３月３１日	
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業 （補助率 ８０％）	
6 事業費	総事業費： 531,676 円（A＋B＋C）	事業収入： 0 円（A）
	実施団体の負担額： 111,676 円（B）	市の負担額： 420,000 円（C）
7 事業成果と波及効果	●受益対象への具体的な成果 1 身体障害児とその家族の生活に関する調査の実施 市内に住所のある対象の家庭へ、市を通じて調査票を郵送、回収し、調査対象家庭 75 世帯のうち、61.3％に当たる 46 世帯から回答を得ることができた。ヤングケアラーの存在や様々な理由により障害福祉サービスの利用をしていない家庭の実態等、潜在的な課題が明らかとなった。結果は報告書にまとめ、調査を依頼した家庭や関係各所へ配布したほか、市のホームページへ掲載した。 2 アンケート調査報告会開催 団体代表、県障害者支援課長、市障害福祉課長、市危機管理監のほか、講師として全国手をつなぐ育成会連合会常任理事兼事務局長の又村あおい氏をお招きし、パネルディスカッションや講演を通じて家庭が抱える困難さの実態と、それに対する制度の周知、先進地の事例紹介等を行った。さくらめいとで無観客で開催し、報告会の様子は FM クマガヤでラジオ放送、熊谷市公式 YouTube チャンネルで動画配信した。 ●達成度 1 身体障害児とその家族の生活に関する調査の実施 今後の障害福祉施策を考える上で参考となる情報を、6 割を超える回答率となった調査結果から得ることができた。 結果から、障害福祉サービスや防災についての関心が高いことがわかり、アンケート調査報告会で中心に取り上げた。 2 アンケート調査報告会開催 関心が高かった内容にスポットを当て、熊谷市の福祉資源、相談窓口、先進地の取り組み等につ	

	いて紹介した。講師には平塚市役所元職員という経歴の持ち主を起用し、行政の視点を交え、具体例を上げるなどわかりやすい講演をしていただいた。 当初予定していた会場開催は叶わなかったが、ラジオ放送及び動画配信により、結果として時間、場所を問わず、広く情報発信する機会となった。 また障害福祉分野に携わる事業所のほか、高齢者介護に携わる居宅介護事業所、訪問入浴や訪問看護に携わる事業所など、福祉に関わる専門職に向けて調査報告書やアンケート調査報告会開催について案内を送付し、情報発信した。 ●波及効果 回答からは、社会全体からすると少数派である当事者家族にスポットを当て、その困難さを発信する機会への期待が感じられた。調査結果は、市ホームページから閲覧でき、事業所や行政がニーズを把握する上での資料となることが想定される。 報告会を聴取、視聴した方からは「繰り返し観たい」「自分には関係のないサービスだと思っていたが改めて知る良い機会になった」「わかりやすかった。こうしてアウトプットしてもらえると必要な方へ届けることができると思う」といった感想が寄せられた。
8 協働の効果	●実施団体から見た協働の効果 本事業の調査において、第一の課題は、調査対象家庭に調査の目的とその意義を理解していただくこと、無記名ではあるものの設問の大半が私的な事情に触れることから取扱い上の説明を丁寧に行い、信用を得ることが必要であった。行政との協働は、調査対象家庭に安心と期待を与え、回答意欲を引き出し、結果として回答率61.3%を得ることが出来た。 また、新型コロナウイルス感染症の状況を常に気にしながらの運営実施であったが、所管課との密な情報共有と適切な助言、協力によって計画の変更にもスムーズに対処することが出来た。 ●所管課から見た協働の効果 肢体不自由を理由とする身体障害児に焦点を絞った調査という、行政側ではあまり実施しないであろう視点での調査により、障害福祉政策上貴重な結果を得ることができた。 また、緊急事態宣言前後の生活の変化や防災対策に関する質問など行政側からは見えにくい側面を、当事者家族の立場から踏み込んで調査することができた。 新型コロナウイルス感染症の拡大が心配される中、ラジオ放送及びYouTubeでの配信といった、結果的に多くの方へ情報発信を可能にする方向へ舵を切る大胆さや人脈の広さも、市民団体ならではのことに感じる。
9 今後の展開と課題	●実施団体から見た今後の展開と課題 本事業の調査によって、身体障害児およびその家族の生活実態を顕在化することが出来た。今後、各カテゴリーから顕在化された課題やニーズの結果を行政および事業所、関係機関、民間支援団体等で更なる分析・研究を行い、様々な政策分野において具体的な施策に反映させ、障害児者およびその家族の生活の質の向上に活かすことが必要と考える。 「埼玉県ケアラー支援条例」により、今まで家族だけで行うことが当たり前とされてきた家庭内での介護を社会的に支援する取り組みが進められている。主たる介護者をはじめとする介護を無償で担う家族（ケアラー／ヤングケアラー）が抱える身体的・精神的・金銭的な困難の軽減・解消に繋げるため、既存の制度に囚われず、地域にある社会資源や仕組みの有効活用と多岐に渡る柔軟な連携、先駆的な新たな社会資源の創出が求められる。 ●所管課から見た今後の展開と課題 身体障害児とその家族の生活に関する困難を明らかにし発信したことで、障害児者への理解が深まったり、広がったりという効果が期待できる。実際に、本報告会を契機に地域の防災組織が防災訓練の方法について検討したり、新聞社が記事を出すなど反響が見られた。 報告会では、様々な理由で障害福祉サービスの利用を控える家庭やヤングケアラーの存在が明らかになり、障害者の困り事の相談窓口である熊谷市基幹相談支援センター「くまさぽ」について周知した。特にヤングケアラーは、家庭内のことで行政での把握が困難であること、また本人や家族が、日常的に介護することを当たり前と捉えているため、発覚しづらい性質である。家庭の外へ援助を求める選択肢の一つとして利用を期待する。

(別紙様式 1)

団体名	特定非営利活動法人めぬまガイドボランティア 阿うんの会
-----	--------------------------------

事業実績報告書（令和 2 年度）

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	埼玉の 3 偉人の 1 人、公許女医第一号・荻野吟子の 出前講座「紙芝居・講演会」	
3 交付決定助成金額	225,000 円	
4 助成事業に要した経費の額	281,156 円	
5 助成金要望額	210,000 円	
6 助成 事業の 成果	(1) 助成事業の 目的達成度	① コロナ禍のため、9 月までは荻野吟子に関する出 前事業や講演の要請がほとんどなかった。しか し、9 月から急に出演事業や講演会のオファーが 入り、15 団体・608 人の参加者を得た。2 か 月の休館日やコロナ禍を鑑みると達成度は 80 % くらいと思われる。 ② 当初の計画どおり、3 偉人の講演会を妻沼中央公 民館の大ホールで実施できた。延べ 542 人の参 加者を得た。達成度 90 %
	(2) 助成事業の 成果の現われ 度	① 今回の出演事業「紙芝居や講演会」に関するチラ シを熊谷市の全小学校や児童館等に配布した関 係もあり、熊谷市内の児童館等に紙芝居や講演会 を実施することができた。80 % ② コロナ禍が大きく影響して、高齢者施設や諸団体 からのオファーが少なかった。達成度 50 %
	(3) 助成事業の 成果の具体的 内容	3 偉人の荻野吟子・渋沢栄一・塙保己一を紙芝居通し て。広めようとお互いに紙芝居を交換して、今後実施 していく計画が進み、すでに本庄市とは交換済みで ある。
7 成果の自己評価	① 荻野吟子記念館への来館者が、年々埼玉県・東京 都・神奈川県・群馬県と広範囲となっている。一 昨年からはホームページを開設したり、来館者全員 の方へのガイドや出演事業の効果と思われる。 ② 吟子の紙芝居の出演事業・講演が好評で、すでに 令和 3 年度の予約が 10 件近く入っている。今後は、 3 偉人の出演事業も計画する。	

(別紙様式 1)

団体名	埼玉文化研究会
-----	---------

事業実績報告書（令和 2 年度）

1	助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2	事業名称	熊谷の地域文化の発掘と広報
3	交付決定助成金額	300,000 円
4	助成事業に要した経費の額	416,203 円
5	助成金要望額	300,000 円
6	(1) 助成事業の 目的達成度	講演会・パンフレット制作・配布とも、十分な目的を達成することができた。新型コロナ感染拡大に伴い三回目の講演会は中止にせざるを得なかったが、現在の代替りの映像作品を制作中である。
	(2) 助成事業の 成果の現われ度	講演会では、十分なコロナ対策をおこなった上で実施することができた。パンフレットも、熊谷文化を発掘できていると、上々の評判を得ている。
	(3) 助成事業の 成果の具体的 内容	7 月 18 日 第 1 回ライブ配信講演会「うちわ祭り一鳶の衣裳を掘ってみる」 10 月 31 日第 2 回ライブ配信講演会「江戸時代の妻沼聖天山の組織と祭礼―古文書から分かった江戸時代、妻沼の姿―」 2 月 28 日『埼玉文化発掘マガジン 土と水と風 第二号』発行
7	成果の自己評価	コロナ感染症対策として、会場に来る人を極力減らし、YouTube にてライブ配信をするという新たな取り組みをおこなうことができた。フリーペーパーの配布場所も昨年度よりも拡大して配布をおこなっている。

7月18日

第1回ライブ配信講演会「うちわ祭り―鳶の衣裳を掘ってみる―」



会場の様子

10月31日

第2回ライブ配信講演会「江戸時代の妻沼聖天山の組織と祭礼―古文書から分かった江戸時代、妻沼の姿―」



配信の様子

2月28日『埼玉文化発掘マガジン 土と水と風 第二号』発行



(別紙様式 1)

団体名	さくらんぼ文庫
-----	---------

事業実績報告書（令和 2 年度）

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」	
2 事業名称	科学本を読んでいろいろなものを作ってみよう！ （ワークショップに参加しよう！）	
3 交付決定助成金額	238,000円	
4 助成事業に要した経費の額	325,405円	
5 助成金要望額	238,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	募集人員は子ども15人、保護者15人を予定していたが、子どもの参加希望が多かったので、保護者に遠慮していただき、子ども23名、大人7名の参加となった。 出席率も良く、毎回、実験を楽しみにしており、帰ってからも家族や友達に見せたり、説明したり、満足しているようだ。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	実験の前に本の紹介をするが、終わってからも本を見たり、借りたりしている。本→実験→本と、いいサイクルができて、科学本に一層、興味をもったらしい。小学1年から小学6年まで、知らない子どもたちが、一緒に学び、教え合い、驚き、笑い合う姿を生き生きとして頼もしい。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	カリキュラムの内容がバラエティーに富み、色々な分野の実験ができ、毎日その成果を持ち帰ることができるのが、モチベーションを高めていったようだ。講師の方々の行き届いた準備でワークショップがスムーズに運び、私たちも子どもたちのお手伝いをしながら、勉強できた。
7 成果の自己評価	初めての試みだったので、とても心配だったが、科学本研究会の講師の方々はさすがプロで内容は完璧でした。ちょっとレベルが高かったのですが、子どもたちが熱心なので、「熊谷の子どもたちはすごい」とおほめくださいました。アンケート結果は、「また、やりたい」との声が多く、新たな企画につなげていけたらと思っています。大成功だと自負しております。	

(別紙様式 1)

団体名	NPO 法人 あいだ
-----	------------

事業実績報告書（令和 2 年度）

1	助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2	事業名称	移動式子ども食堂(あい♡だいな～)
3	交付決定助成金額	300,000 円
4	助成事業に要した経費の額	211,340 円
5	助成金要望額	158,000 円
6	(1) 助成事業の 目的達成度	感染症拡大防止のため、開催日数が限られましたが、商業キッチンカーの持ち出しなく次回開催の見通しがあること、また複数場所で開催したりと、次年度の開催への見通しが持てたということは達成です。
	(2) 助成事業の 成果の現われ 度	今後の開催を期待する声が聞かれるのと同時に、他県でも同様の方法で開催したいという問い合わせがあるなどの成果がありました。
	(3) 助成事業の 成果の具体的 内容	商業キッチンカーに食事提供を委託する形で、子供食堂を開催いたしました。本年は、衛生面の配慮から、お弁当配布のみという形にし、全 5 回開催して、延 150 食分を熊谷市に住う子供に無償で提供しました。 場所を提供してくださった民間の飲食店の協力もありながら、ランチは郊外で、ディナーは市民活動支援センターで、という同日二箇所での開催をいたしました。 大人分は 190 食分が提供され、こちらは商業キッチンカーの収益になり、次回以降の出店への動機づけになりました。飲食店支援だとしても一定の成果が見込まれます。
7	成果の自己評価	触れ合いの場を創出するという点については飲食を伴う不特定多数への事業が憚られたため達成できなかったが、複数場所で開催できたこと、次年度開催も見通せたこと、他の自治体在住者（東京、千葉、沖縄）からも問い合わせがあったことは満足のいく成果です。